

社外の知恵活用「オープンイノベーション」 福岡で活発に

ふくおかFG、AIで連携へ拠点

2017年12月22日 1:59 [有料会員限定]

外部との連携を通じて新事業創出などを目指す「オープンイノベーション」の取り組みが広がっている。ふくおかフィナンシャルグループ（FG）が人工知能（AI）について学ぶ場を設け融資先などの連携を促すほか、九州電力なども外部提案の事業化を進める。社内にはない知恵や技術を取り込み、市場環境の変化やAIなど急速な技術の進歩への対応を急ぐ。

ふくおかFGは22日、ITベンチャーのグルーヴノーツ（福岡市）などと、AIについて学べる「OPEN AI LAB（オープンAIラボ）」を開く。グルーヴノーツの機械学習ツールを使い、商品の販売予測や顧客の来店予測、不良品の検知などにAIを活用するためのノウハウを提供する。

専用の交流サイトなどを通じ企業や教育機関などが情報や技術を相互に活用できる環境も整え、連携を促す。「参加企業の中から新しい組み合わせが出てくることを期待したい」（ふくおかFGの東慶太氏）。ふくおかFGにとっても、社外の経営資源やアイデアを活用できる利点がある。行員を派遣し、与信判断や不正検知などにAIが活用できないか検討する。



西鉄は様々な提案の中から選んだ台湾ベンチャー(イアン・リャオ CEO(中))と組み、旅行事業を始めた

企業間連携を目指す取り組みが増えている

九州電力

スタートアップ支援のCrewwと組んで募った提案から10社を選定。来年度をメドに事業化進める

凸版印刷

福岡のベンチャー支援団体「スタートアップゴーゴー」と組み、新規事業提案を募るプログラムを実施。現在選考中

西日本鉄道

優れたアイデアを募る「西鉄Co+Lab」を実施。選考を通過した台湾ベンチャーとゴルフツアーを事業化

パナソニック

福岡市内の開発拠点に社内外の技術者などが交流できる施設を開設
福岡県

中小・ベンチャーが大企業へ事業提案する説明会を実施。新出光、Q T n e tなどが参加

安川電機

新規事業創出など目指し、AIやIoTなどのベンチャーに3年間で20億円投資

地場企業も外部からの事業提案を募る例が増えている。九州電力はスタートアップ支援のCreww（東京・目黒）と連携して募った10社と事業化に向けた実証実験を始める。西日本鉄道もオープンイノベーションプログラム「西鉄Co+Lab」を通じて提案があった台湾のゴルフアプリ開発会社と連携。このほど台湾人向けの訪日ツアーを展開し始めた。

ただ、ベンチャー側からは「（現状では）大企業がタダで企画書を集めているだけでは」（福岡市のベンチャー経営者）と冷めた声も聞かれる。

連携により双方がメリットを得るためには、大企業側もスピード感など様々な企業文化の違いを乗り越えて歩み寄ることが必要になる。九電の青木計世グループ会社戦略グループ長は「対等なパートナーとしての信頼関係」とともに「トップ層のスポンサーシップや社内関係部門の協力体制が推進のカギ」と、社内の意識や組織の変化も重要とみる。